

海外安全対策情報第3四半期（2015年7月～9月）

1. 社会・治安情勢

フィジー国軍司令官の突然の辞任や反政府組織による秘密裏の訓練に伴う多数の容疑者の摘発等が発生したが、特に政治的な要因による騒擾などは発生していない。現在、犯罪・暴動等の具体的な情報はないものの、不測の事態を避けるため、集会等が行われている場所にはなるべく近づかないようにし、もし異常を感じたら、速やかにその場から立ち去るようにすることが望ましい。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

フィジー警察の統計によると、2015年第3四半期（7月～9月）の犯罪認知件数は4,936件であった。これは、2014年同時期と比較して約14%の増加となっており、今年に入り第1四半期（1～3月）における約25%の増加や第2四半期（4～6月）における約30%の増加等、今年に入り増加傾向が続いていることから、これまでと同等に十分な注意が必要である。なお、2014年全体の犯罪認知件数は約2万件であり、過去10年で最多の犯罪認知件数となった2012年とほぼ同水準であることから、引き続き高い犯罪発生件数にあると考えられ、現在の犯罪増加傾向から推察すると2015年は過去最高を記録すると予想される。

なお、フィジーで発生する犯罪の約5割がひったくり、スリ等窃盗や侵入強盗等となっており、引き続き大使館にも邦人の窃盗被害の報告が多数寄せられていることから、カメラ、携帯電話等の貴重品は人目に触れないように持ち歩き、マーケット、バスターミナル、イベント会場周辺等混み合う場所では引っかけやスリに十分注意する必要がある。また、邦人住居への侵入強盗事案も発生していることから、周囲の状況、警備員の配置、扉や窓の安全等の確認を怠らないように十分注意する必要がある。その他、邦人がよく利用するスーパーの駐車場にてタイヤのパンクを指摘され鍵を解錠した際に、隠れていた不審者が突然車両内やトランクから荷物を盗んで逃走するケースが多く発生していることから車両運転時等にも十分な注意が必要である。

3. テロ・爆弾事件発生状況

該当する事件は発生しなかった。

4. 誘拐・脅迫事件発生状況

該当する事件は発生しなかった。

以上